

蔵地台地

～ 「夢」と「高森の心」を育み、
挑戦し続ける学校 ～

熊本県高森町立高森東学園義務教育学校
【学校便りNo. 27】 H30. 11. 2 文責：塩村

「答えのはっきりしない課題 が当たり前」の世の中！ ～ 協力し合い、いかに知恵をしぼるか ～



「 $1 + 1 = \square$ 」、「 $8 - 3 = \circ$ 」。 \square や \circ にはどんな数字が入りますか。だれでもすぐに、 $\square = 2$ 、 $\circ = 5$ と答えるでしょう。このように、算数では、はっきりとした答えを求めなければなりません。理科でも「太陽は東からのぼって西にしずむ」と学習します。他のどの教科でも、ほとんどの場合「正解」が隠されていて、その正解にたどり着くための課題に取り組むように授業が展開されていきます。

もちろん、このような学習はとても大切なことです。今週、9年生が2日間にわたって受けた第2回共通テストにも必ず正解があり、9年生は、その正解に向かってひたすら問題に取り組んだわけです。しかし、世の中の課題は、このように正しい答えがすぐに導き出せるものばかりではありません。例えば、「高森町の人口減少をどう食い止めるか」などの課題は、一筋縄では解決できません。私たちの身の周りには、このような課題が他にもたくさんあるのです。

児童生徒のみなさんには、このように解決の難しい課題は当たり前存在するということを知ってもらいたいと思います。これからの将来は、新たな課題がもっとたくさん出てくることが予想されます。みなさんには、そのような課題解決に向けて、協力しながら積極的に取り組もうとする姿勢や力が求められるのです。



【「子ども議会」の様子】

9年生が取り組んだ、町の「子ども議会」も、答えがはっきりしない課題の解決に向けた取組の一つです。「地域活性化プラン～町民POWER＋移住者POWER→高森町活性化～」と題して、具体的なデータを基に高森町を活性化するための方策を提案してくれました。本年度、学校として取り組んでいる、「起業体験推進事業（文科省）」についても同様です。どのような物を作るか、どのようにしたら物が売れるかなどについて、みんなで知恵を出し合い考え取り組んでくれています。17日のひめゆり文化祭での発表が楽しみです。

これからの社会は、益々変化の激しい時代へと変貌していきます。そのような時代を生きる児童生徒のみなさんには、時代の変化に柔軟に対応できる「生きる力」が求められています。学校では、正解のない課題を乗り越えていく基礎となる力を子どもたちに身に付けさせられるよう、これからも保護者・地域の方々のご協力を得ながら、取り組んでまいります。